



ボランティア・市民活動情報誌
OITA
ぼらのたね

URL ☎ <http://www.coara.or.jp/~oitavoc/> E-mail ✉ oitavoc@fat.coara.or.jp

発行所
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会
大分県ボランティア・市民活動センター
〒870-0907
大分市大津町2丁目1番41号
発行所
TEL (097) 558-3373
FAX (097) 558-1296
2006 JUNE
No. 4

おaitaで発見! NEWグループ

新しい年度が始まりました! 気分も新たに何か始めてみたいと思う人が多いこの時期。創刊1周年を迎える今回の「ぼらのたね」は、これからボランティアを始めてみようかな~という方のために、大分でユニークな活動を始めようとしている2つのグループをご紹介します。

イマドキのボランティア活動は本当にさまざまに幅広いですよ~。 Check It!

○共生大分

DATA 活動範囲: おもに大分市保健所の管内
活動者数: 14名(+活動犬数12匹)
年会費: なし(犬のバンダナ代は別途)
URL: <http://www18.ocn.ne.jp/~ooita/>

Q. この活動を始めようと思ったきっかけは?

A. 私の本職は薬剤師で、介護保険制度の居宅療養管理指導をしています。一人暮らしの高齢者のお宅を仕事で訪問した際、体が悪くなり愛犬を散歩させることができなくなったけど犬の散歩は介護保険の家事援助の対応外なので困っているという方に出会ったり、高齢の一人暮らしの方が急に亡くなった時、都会で離れて生活している子どもが家財と一緒にその方の愛犬も処分してしまったというケース等を見聞きすることがありました。それでこの状況をどうにかしなくてはと思っていた時、県獣医師会などが「動物愛護ボランティアリーダー養成講座」を開くことを知り、受講しました。講座では大分県動物管理所(大分市小野鶴)を見学する機会があったんですが、とても辛い経験で…。今でもその光景がフラッシュバックしてくることもあります。しかし、その時の辛い経験を忘れずに、現実を知った者の義務として動物愛護活動をしています。

Q. 現在のおもな活動内容を教えてください

A. 依頼があった犬や猫の新しい飼い主をインターネット(ペットの里親大分 <http://www.h6.dion.ne.jp/~ps0/>)や大分団地新聞、口コミで探し譲渡しています。また団地新聞などで動物愛護の啓発のために犬猫に関する記事を書いています。他にも狂犬病予防の啓発と狂犬病注射済票の装着による迷子犬からの殺処分をなくす運動や4/1からわんわんパトロール活動も始めました。

Q. 今後はどのような活動をする予定ですか?

A. 高齢者に代わって愛犬の散歩とエサやりをする有償の「ペットシッター活動」や、動物と一緒に福祉施設や個人宅を訪問する活動をしたいと思っています。

Q. 最後にメッセージをどうぞ

A. 人と動物が自然な形で共生していける社会の実現を目指しています。人も動物も同じ地球号に乗っている生き物です。私たちの活動に興味のある方の参加をお待ちしています! イオンの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」(※詳しくは「ぼらのたね」をご覧ください)にも、ジャスコ高城店・光吉店・パークプレイス大分店で参加しているのでご協力をお願いします。

■県ボラコメント■

多くの家庭でペットを飼う時代ですが、飼う時には見た目のかわいさやブームに踊らされずに「最期まで責任を持つ」という気持ちが重要だと改めて考えさせられました。わんわんパトロール活動はペットも地域の一員として、気軽に地域の防犯活動に参加できるユニークな取り組みです。みなさんもワンちゃんと参加してみませんか?
(※取材にご協力いただいた方の氏名はご本人の希望により控えさせていただきます。)



○ニッポン・アクティブライフ・クラブ(NALC/ナルク)
大分支部(事務局:末永茂樹さん)

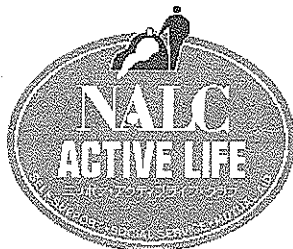
DATA 活動範囲:大分市中心
(本部は大阪、県内では大分市以外にも会員あり)
活動者数:20名(3月末現在)
年会費:お一人でもご夫婦一緒に入会しても 3,000円
(ボランティア保険料、拠点運営費含む)
連絡先:090-3078-2857(末永)097-541-2160(吉田)
URL:http://nalc.jp/



大分支部事務局の末永さん

Q.ナルクについて教えてください

A.全国組織の会員制ボランティア団体(NPO法人)で、別名「日本時間預託ボランティア協会」と言います。「時間預託制度」を採用していることが特徴で、NHKの「難問解決!ご近所の底力」や「クローズアップ現代」などでも紹介されました。



▲日本全国にある支部の共通マーク

Q.「時間預託制度」って?

A.時間預託とは会員相互の助け合いで、「自分のできること」を「できる時」に「できる方法」でサービスを提供すると、1時間の活動につき1点が貯まります。貯めた点数は会員自身が必要な時に使ってサービスを受けることもできますが、ナルクは全国組織なので遠く離れて住む家族のためにも使えます。

Q.活動を始めたきっかけは?

A.ナルクのシステムを知り、ボランティアして時間預託ができるなんて今の時代によくマッチしていて面白そうだし奥が深そうだと思ってたんですが、まだ大分支部はなかった。そんな時、のちに大分支部の代表になる吉田志津子さんと出会い、「他の誰かが支部を立ち上げる前に自分たちで立ち上げよう!」という話になりました。生涯現役を目指し、会員同士が信頼・相互扶助などのネットワークで結ばれている素晴らしいグループを作り上げ、地域おこしに寄与できたらと思っています。

Q.具体的にはどういう活動をしていますか

A.大分支部の正式な設立は現在準備中ですが、会員それぞれの経験や技術、得意なことを活かして、会員相互の助け合い活動と福祉施設や会員以外の方などを対象としたボランティア活動をしています。具体的には特養や保育園・幼稚園の慰問、ホスピスのお手伝い、家事援助、外出介助、パソコン操作、買い物など、福祉関係の法律や行政サービスの隙間を埋め、本当にかゆいところに手が届くサービスを実施しています。



Q.今後はどのような活動をする予定ですか?

A.支部設立総会を7/8(土)にコンパルホール4F 大会議室(大分市府内町)で午後1時半から開催します。設立記念として大会議室ではナルク本部の会長の講演、中庭ではボランティアによる音楽演奏などを予定しているので、みなさんぜひお越しください。設立後は、ボランティア活動以外にも、人材育成の講習会、他団体との交流、サークル活動などを計画しています。

Q.最後にメッセージをどうぞ

A.ナルクは「人生をいきいきと過ごすために<自立>を求める団体」「元気なうちは困った会員のために働いてボランティアの時間を貯め、自分が困った時には引き出して助けてもらう時間預託システムによる<助け合い>の団体」という特徴があります。だからといって会員にボランティアを強いることはなく、あなたのできることをできる時にできる方法で参加すればいい。こんな自由な集まりがナルクです。ボランティア活動だけでなく素晴らしい出会いをもとにサークル活動も展開しますので、あなたも会員になって明日も輝いていられる生きがい探しに出かけませんか。老若男女問わず会員募集中です。楽しくて心優しい仲間が待ってますよ。

■県ボラコメント■

ナルクの魅力は何と言っても「時間預託」。最近この制度を使って、アメリカに移り住んだ会員が日本で一人暮らしをしている父親の話し相手を依頼し、父親は家の近くに住む会員からサービスを受けるようになったという例も。こんな「海を越えた親孝行」もできるナルクのネットワークが更に広がっていくことを期待しています。

【まとめ】

今回お話をうかがったお二人に共通しているのは、何といっても行動力があること。そして行動力の源には強い「想い」も。さあ、みなさんも日頃いろいろ気になっていること、ありますよね?その想いがふわあ〜っと消えてしまわないうちに、勇気を出して行動してみませんか?

▼被災地を支援する活動は、現地に行っている活動ばかりではありません。一般的なのが救援物資と義援金を送る活動です。しかし、救援物資の送付方法によっては現地を「第二の災害」として困らせてしまうことを知っておく必要があります。物資は必要な所に必要な物を必要なだけ送ることが大切です。▼大分県社会福祉協議会(以下社協)では、新潟県中越地震で物資を送付した際、新潟県庁の物資募集担当者と連絡をとりながら必要な物を県内から集めました。物資を入れる段ボールは同じ規格のものを引越業者から提供してもらい、箱の外側三方所(箱の上部・隣同士横2方所)に内容物・サイズ・数量を大きく書き、積み重なった箱を開けなくても中身が分かるようにしました。物資は当社協職員と災害ボランティアとで手分けして梱包し、合計147箱に同じ規格の箱にそろえたのは、積み重ねた時の荷崩れ防止のための配慮からでした。▼救援物資の募集方法で見習おうと思つたことがあります。阪神淡路大震災で物資の取り扱いを経験している兵庫県のケースです。豊岡市での水害発生当初は大量に必要な飲料水・食料等の募集は行政がしていました。数日後、兵庫県庁のホームページで救援物資を検索すると、こちらが提供できる物資の書き込みをする画面が表示されるようになります。必要でない物資を記入すると「今は必要ありません、ありがとうございます」と回答が。その折、大分県内の企業から「現地が必要だ」という物を購入して送りますよ」と申し

出があったのでその旨を書き込みました。すると、取り次ぎを行つていてというNPOから「現地に確認して連絡しますのでもしばらくお待ちください」との返事。待つていると「〇〇町では鍋が大小と必要だと言っていますが、対応できますか?」こちらでも企業に連絡し、対応可能ということになりました。確定したので送付が終わりましたら連絡をください。▼このやりとりで感じたのは、必要な所に必要な物を必要なだけ送る役割を行政ではなくNPOが担つていたことです。行政のホームページからNPOの救援物資対応サイトに入れるようにしていただきましたから、行政とNPOが役割を分担していたことになりました。この仕組みだと救援物資の仕分けだの保管場所の確保だのと、被災地で余分な作業をしなくて済みますよね。さすが兵庫!「これはいただき!」と独り言を言ったことを覚えています。▼新潟県への義援金も県内で募集しましたところ、たくさんの方々から善意の募金が集まりました。そのみなさまの厚意に対して新潟県知事より、取りまとめをした大分県社協あてに感謝状が届きました。この場をお借りしてみなさまにお礼を申し上げます。▼また大分県社協は新潟県中越地震の際、初めて「ボランティア活動支援金」も同時に募集しました。現地に入つて活動を継続的に行うためには活動費が必要ですが、それをいつまでも活動者個人の善意に頼つてばかりでは活動を続けることは難しいでしょう。これはボランティアの活動を支える大切なお金です。直接被災者を支援するも

のではありませんが、間接的に被災者を支えます。▼新潟県中越地震災害が起こつた後、スマトラ沖地震など世界各地でも大災害が起こり、新潟が報道される機会が減つたためみなさんの記憶から薄れてきているのでしようが、新潟では二年連続の豪雪のため被災地の復興ができず農業従事者や養鯉業者等の生活再建が完全ではありません。そして今も新潟県内には、現地に移り住み被災者に寄り添つた活動を続けているボランティア団体があります。問題はまだまだ山積みです。支える人たちの継続的な支援はこれからも必要でしょう。▼今回は被災地を支援する役割分担の一部をご紹介します。なかつたものが戻つてくるわけはありませんが、たくさんの方々の温かい支えによって新潟はゆつくり復興に向かっています。(文責/村野)



<新潟県知事より贈られた感謝状>

ぱらねた... ボランティア・市民活動に役立つマメ知識

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン
URL <http://www.aeon.info/>



ためらわず入れよう!レシート投函BOX

みなさんは「幸せの黄色い…」と言えば、この後に続く言葉は何を思い浮かべますか…? ハンカチ?いいえ、今は「レシート」! イオングループのジャスコ各店舗では毎月11日を「イオン・デー」とし、買い物をする黄色いレシートを発行しています。このレシートをみなさんが応援したいボランティア団体等の専用BOXに投函すると、投函されたレシート総額の1%相当の商品をイオンが各団体に助成するというキャンペーンです。ジャスコ高城店のキャンペーン担当 平川みどりさんに詳しいお話を伺うと、これは地域への社会貢献活動の一環として平成13年から始まった取組で、高城店では現在11団体が登録されており、1団体当たり年間平均4000円相当の品物を贈呈しているそうです。ただ、キャンペーンについての認知度がまだ低いため、BOXにレシートを投函するのをためらうお客さまも多いとのこと。平川さんは「登録団体の方は少ない金額でも喜んでくれるのでとてもうれしく思います。いずれは大々的に商品贈呈式ができたら…」とお話されていました。団体登録は各店舗ごとに受け付けています。あなたの買い物レシートが地域の笑顔に変わるこのキャンペーン、気軽に参加してみは?

ボラけいじばん

■「ほらのたね」つくりボランティア募集

創刊1周年を迎えたボランティア・市民活動情報誌「ほらのたね」は大分のみなさんにとってより身近な情報誌を目指して、一緒に制作するボランティアを募集します。

活動内容／企画会議、取材、文章作成、発送作業など。
発行回数は年4回予定。

活動期間／平成18年6月頃からの1年間(更新も可能)
活動時間／会議や作業は平日の夕方以降を予定。実際に県ボラに集まるのは月1、2回くらいでメールなどでの活動が中心。取材に行くことも予定。

募集人数／18才以上の方 2名
備考／パソコンのメールアドレスをお持ちで、ご自身でボランティア活動保険の加入をしていただける方に限ります

募集締切／6月30日(金)
活動希望の方はメールで県ボラoitavoc@fat.coara.or.jpまでお申し込みください。またその際に、「ほらのたね」を読まれた感想、「私なら『たね』をこうしたい」という意見を必ず書いて送ってください。

■障がいのある子どもたちと遊ぶボランティア募集

障がい児の保育に興味のある方、お気軽にご連絡ください！
場所／肢体不自由児通園施設こじか園(別府市鶴見 別府発達医療センター内)

活動日時／月～金の13:00～15:00ごろ
(※活動できる日時だけで可)
活動内容／障がいを持った子ども(1～6才くらい)との交流活動(例)散歩、読み聞かせ、屋外遊び、音楽遊びなど

募集人数／1日につき2～3名
連絡先／0977-24-8504(担当:安達)

■障がい者施設で絵や書道を教えてみませんか

あなたの特技を活かすチャンス！月1回の活動でOKです。
場所／身体障害者通所授産施設
ワークスペース榎の木(大分市牧)

活動日時／月～金の11:00～14:30(※水曜は11:00～13:30)の間で都合のいい1時間半

活動内容／施設の利用者さんに絵または書道を教える
募集人数／絵・書道の指導 各1名
交通費／1回の活動につき700円支給
連絡先／097-553-3397(担当:藤原)



■県ボラの新しいパンフレットができました

県ボラの事業内容やボランティア・市民活動ルームの利用について、分かりやすくご紹介しています。県総合社会福祉会館などで配布していますので、見つけたらぜひ手に取ってみてください。



■太陽生命ひまわり厚生財団平成18年度社会福祉助成事業

助成対象／以下の事業または費用

- 1.在宅高齢者または在宅障がい者の自助・自立の意欲を引き出し、または鼓舞する等その生活の支援に資する事業
- 2.在宅高齢者または在宅障がい者の家族に対し介護負担の軽減に関わる支援をする事業
- 3.在宅高齢者または在宅障がい者の福祉に関する事業をするために必要な機器、機材、備品等を整備する費用

応募資格／地域福祉活動を目的とするボランティアグループおよびNPO(法人格の有無は不問)

助成金額／1件あたり20～50万円(総額2,000万円)
応募締切／平成18年6月末日 必着
応募書類は平成18年6月20日までにFAXまたは郵便で下記に請求してください。

東京都中央区日本橋2-11-2
(財)太陽生命ひまわり厚生財団 TEL・FAX 03-3272-6268

収集 ボランティアさん * * * * * * いつもありがとう



情報誌「ほらのたね」では、読者のみなさんからのご意見・ご感想、情報の提供などをお待ちしています。おたより・メールは「大分県ボランティア・市民活動センターほらのたね係」までお送りください。

- 使用済みプリペイドカード、使用済み切手、書き損じハガキの収集等にご協力いただいた皆さんをご紹介します。(敬称略)
- 手話サークルはぐるま(夜の部)
 - 多摩化学工業(株)大分工場 ●津久見ライオンズクラブ
 - 日本オストミー協会 ●日出養護学校



編集後記

春は出会いと別れの季節。先日、この春に短大を卒業し県外へと旅立ったボランティアが卒業論文を送ってくれました。内容は自閉症に関する研究で、論文の最後に「研究テーマとこれからの目標をいただいた、ボランティアで出会った自閉症児たちに感謝します」という一文が。彼女たちはボランティア活動を通じてとても素晴らしい出会いをしました。これからも彼女たちの人生に幸あれ！

ボランティア・市民活動についてのご相談・お問合せは...

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 **大分県ボランティア・市民活動センター**

●開所時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15 ●ボランティア・市民活動ルーム開室時間 月曜日～土曜日 9:00～20:30
〒870-0907 大分市大津町2丁目1番41号 日曜日、水曜日 9:00～17:00
TEL(097)558-3373・FAX(097)558-1296 平日の17:00以降及び土、日、祭日は事前に予約

http://www.coara.or.jp/~oitavoc/ E-mail:oitavoc@fat.coara.or.jp